

第1章 研究の概要

研究の経過

情緒障害教育の対象については、平成9年の全国情緒障害特殊学級及び通級指導教室の調査によると、自閉症を中心としてLDやADHDを含めた発達障害が多く、また近年では一層その傾向が強くなっていると推測される。一方、昭和43年の調査で情緒障害の例として挙げられている神経症・緘黙症・精神病・脳の器質的障害のある児童生徒についての教育的対応についても情緒障害教育に関する重要な研究課題であると考えられる。

当研究所ではLD、ADHD、自閉症等の発達障害のある児童生徒の教育に関しては、別のプロジェクト研究や課題別研究で取り組みがなされている。そこで、本課題別研究では発達障害以外の情緒障害である神経症・緘黙症・精神病・脳の器質的障害と、発達障害と関連があるものの発達障害そのものではない反抗挑戦性障害や行為障害についての研究を行った。これらの障害のある児童生徒についての教育的対応について文献的研究を行うと共に、行為障害についての教育的対応については事例研究を行った。

その研究成果について本報告書にまとめた。

研究組織

<所外研究協力者>

川端 久詩	横須賀市立公郷中学校教諭
広沢 郁子	東京都立梅ヶ丘病院医師
三宅 幸夫	青鳥養護学校梅ヶ丘分教室教頭

<研究協力機関>

東京都立梅ヶ丘病院

<所内研究分担者>

花輪敏男	教育支援研究部（平成 16 年度まで）	研究代表者(平成 16 年度)
渥美義賢	教育支援研究部	研究代表者(平成 17 年度)
大柴文枝	教育相談センター	
笹森洋樹	教育支援研究部	
是枝喜代治	教育支援研究部（平成 16 年度まで）	
玉木宗久	教育支援研究部	
廣瀬由美子	教育支援研究部	

以上, 代表者以外は 50 音順
(文責 渥美 義賢)